

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1991400035		
法人名	社会福祉法人 平成福祉会		
事業所名	グループホーム ラシック桂台		
所在地	山梨県大月市猿橋町桂台一丁目99番		
自己評価作成日	平成28年11月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成28年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

定期的に献立の買い出し、買い物、外食・行きたい希望がある場所、ドライブ等外出をする機会を作り地域社会での暮らしが感じられ、また気分転換に繋げられるように支援しています。自分で出来る事については声掛けし意向の確認を行いながら調理・盛り付け・食器洗浄・洗濯物たたみ等、家庭で行われていた家事行為を職員と共にに行い役割や意欲に繋げられるようにアプローチしています。家族面会時にも日頃の状況、体調の変化等をキーパーソンにお話しし対応の方向性のずれが出ないように心がけ、ご家族が来やすい雰囲気作りを事務室・ユニット共に意識し対応を行っています。また日頃の状況が分かり易いようホールに写真を掲示したりブログ等を活用して情報の発信を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、中央線猿橋駅南部の高台に位置する新興住宅地「桂台」にある。正面に岩殿山が見え中央線や中央道、桂川や町の様子が眼下に眺望出来る。また、優れた製品やサービスを提供している事業所に与えられる、ISO9001(品質管理)を同法人内の2事業所が取得している。、当事業所もそれに準じた管理と共に、介護福祉士職員や認知症介護実践者研修修了職員も多く、利用者満足度の高い支援を行っている。また、市内で唯一のグループホームという事もあり、認知症カフェ(オレンジカフェ)等市と協力して地域高齢者への支援もっている。

外部及び内部研修を含めた、身体拘束廃止の研修を実施している。また、認知症介護実践者研参加者も多い事等から、職員の身体拘束をしない

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム ラシック桂台**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づき運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の経営理念「しわあわせを共に」・介護方針「安心・安全・あなたらしく」を意識し入居者の情報共有と対応の検討を定期的に行い入居者にとっての最善の対応が出来るよう取り組みを行っている	法人の経営理念「しわあわせを共に」・介護方針「安心・安全・あなたらしく」を意識し入居者の情報共有と対応の検討を定期的に行い入居者にとっての最善の対応が出来るよう取り組みを行っている	毎日の昼礼(ミーティング)時、月1回のケア会議時、内部研修会開催時等で、理念の確認と共有を図っている。利用者と職員との距離感が出ないように「コミュニケーションツール13の徳目」を毎日活用して、常に利用者の目線に合わせた支援を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的開催される運営推進会議で、地域の民生委員の方から地域での活動を紹介してもらい参加したり、ボランティアの受け入れを行ったりしている。平成28年8月からオレンジカフェを開催し地域の認知症高齢者、本人・家族等への支援が出来るようにしている。	定期的開催される運営推進会議で、地域の民生委員の方から地域での活動を紹介してもらい参加したり、ボランティアの受け入れを行ったりしている。平成28年8月からオレンジカフェを開催し地域の認知症高齢者、本人・家族等への支援が出来るようにしている。	桂台地区の民生委員の積極的な支援で公民館活動の紹介やフラダンス、ギター演奏等のボランティアがある。家族の腹話術訪問もある。オレンジカフェや同法人のデイサービスの利用者との交流、近くのドライブ等から地域の人々と触れ合う機会づくりに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大月市の地域ケアシステム構築の為に認知症ワーキングにも参加し関係各所にグループホームに対する理解が得られるようアプローチしている。委託事業としてオレンジカフェを行う事により認知症についての情報発信を行える環境を作っている	大月市の地域ケアシステム構築の為に認知症ワーキングにも参加し関係各所にグループホームに対する理解が得られるようアプローチしている。委託事業としてオレンジカフェを行う事により認知症についての情報発信を行える環境を作っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で得た意見からサービスの見直しや新たな取り組み等を検討、実施し事業所のサービス向上に役立っている	運営推進会議で得た意見からサービスの見直しや新たな取り組み等を検討、実施し事業所のサービス向上に役立っている	会議は2か月に1回開催している。民生委員からは、避難訓練時に消防署に依頼して指導や助言を受けたらどうかと提案があった。また、市の職員からは、防犯用監視カメラの設置や介護用ロボット申請の情報提供があり、支援に役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な運営推進会議への参加依頼、認知症ワーキングへの参加、オレンジカフェ・運営推進会議の開催等により、相互間の情報共有・連携・取り組みを行っている	定期的な運営推進会議への参加依頼、認知症ワーキングへの参加、オレンジカフェ・運営推進会議の開催等により、相互間の情報共有・連携・取り組みを行っている	市唯一のグループホームという事もあり、オレンジカフェの開催、認知症ワーキング参加等の日程調整で連絡を取り合っている。運営推進会議録を含む資料の提出や利用者の事故報告、反対に困難事例を含めた入所相談を受ける等、積極的な協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内での内部研修の中で高齢者権利擁護・身体拘束の研修を行い身体拘束の弊害や内容について説明し意識付けが出来るようにしている	施設内での内部研修の中で高齢者権利擁護・身体拘束の研修を行い身体拘束の弊害や内容について説明し意識付けが出来るようにしている	外部及び内部研修を含めた、身体拘束廃止の研修を実施している。また、認知症介護実践者研参加者も多い事等から、職員の身体拘束をしないケアに対する意識レベルが高い。スピーチブロックにつながる言葉遣い等は、職員同士で注意し合える職場環境となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での内部研修の中で高齢者権利擁護・身体拘束の研修を行い身体拘束の弊害や内容について説明し意識付けが出来るようにしている	施設内での内部研修の中で高齢者権利擁護・身体拘束の研修を行い身体拘束の弊害や内容について説明し意識付けが出来るようにしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修の中でも権利擁護の視点について分かり易く説明し理解が得られるようにしている。また認知症施策のワーキングに参加している際に司法書士から現状の成年後見人制度の実態を意見として伺う事により管理者として制度の理解を深められるようにしている	内部研修の中でも権利擁護の視点について分かり易く説明し理解が得られるようにしている。また認知症施策のワーキングに参加している際に司法書士から現状の成年後見人制度の実態を意見として伺う事により管理者として制度の理解を深められるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明時に内容についてのイメージや理解が得られやすいよう事例等を通して説明を行っている	重要事項説明時に内容についてのイメージや理解が得られやすいよう事例等を通して説明を行っている		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム ラシック桂台**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者・家族等意見の反映 利用者や家族等が意見・要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者に対しては、日頃の関わりと年2回入居者アンケートを実施し意見・要望が言える機会を作っている。ご家族に対しては面会・受診付き添い・電話連絡時に気になっている事や不安に思っている事等を言いやすい雰囲気を作りコミュニケーションを多く取るようにしている。入居者・家族共に出た意見については早急に対応し信頼が築けるようにしている	入居者に対しては、日頃の関わりと年3回入居者アンケートを実施し意見・要望が言える機会を作っている。ご家族に対しては面会・受診付き添い・電話連絡時に気になっている事や不安に思っている事等を言いやすい雰囲気を作りコミュニケーションを多く取るようにしている。入居者・家族共に出た意見については早急に対応し信頼が築けるようにしている	年2回、22項目からなる利用者アンケートを実施している。アンケートは利用者が答えやすいよう、事務職員が担当する等の配慮をしている。その結果から前回との比較を行い、問題点を把握し改善点を見出している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的開催しているケア会議の中で気付きシートによる改善提案に対しての早期対応、事故予防・食事・感染等の委員会や入居者毎の状況についての対応策についての検討等を行い反映が出来るようにしている。また年2回職員を対象としたアンケートを実施している	定期的開催しているケア会議の中で気付きシートによる改善提案に対しての早期対応、事故予防・食事・感染等の委員会や入居者毎の状況についての対応策についての検討等を行い反映が出来るようにしている。また年2回職員を対象としたアンケートを実施している	無記名による職員アンケート10問を年2回実施し、結果は法人6事業所で比較検討している。良い点・問題点を把握し、改善点を見出している。また日常的には、何気ない意見でも発する事が出来るように、職員の「気づきシート」も用意され、それらの意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員、個々の業務の中での気付き等を業務改善に早期の段階で繋げ意欲が持てるように配慮している。職員投票制度への参加、職員を対象としたアンケート等を実施し意見や評価がしやすい環境作りを行っている	職員、個々の業務の中での気付き等を業務改善に早期の段階で繋げ意欲が持てるように配慮している。職員投票制度への参加、職員を対象としたアンケート等を実施し意見や評価がしやすい環境作りを行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人の意向を把握しながら資格取得の研修参加、専門的な知識の向上等に繋がる施設外研修会への参加等を勧めている。また全介護職員を対象に年間計画に基づいた内部研修を行い介護技術、知識の向上が出来るよう取り組んでいる	本人の意向を把握しながら資格取得の研修参加、専門的な知識の向上等に繋がる施設外研修会への参加等を勧めている。また全介護職員を対象に年間計画に基づいた内部研修を行い介護技術、知識の向上が出来るよう取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加等を通じて職員が他事業所の職員と関わりが持てるような機会を作っている。(認知症実践者研修・認知症リーダー研修等)	外部研修への参加等を通じて職員が他事業所の職員と関わりが持てるような機会を作っている。(認知症実践者研修・認知症リーダー研修等)		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時にアセスメントを詳細に行い身体・生活状況等を把握しどのような事に困っているのかを時間を掛け確認している。本人が把握していない困難な部分についてもアセスメント、プラン作成時に検討しユニット職員と情報共有しながら安心して入居出来る環境作りを行っている	面接時にアセスメントを詳細に行い身体・生活状況等を把握しどのような事に困っているのかを時間を掛け確認している。本人が把握していない困難な部分についてもアセスメント、プラン作成時に検討しユニット職員と情報共有しながら安心して入居出来る環境作りを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み段階で現状の介護の状況について傾聴し困っている事や不安な事について時間を掛けてお話を聴き、関係作りが出来るようにしている。また記録として相談内容記録票に残し情報の共有が出来るようにしている。	入居申し込み段階で現状の介護の状況について傾聴し困っている事や不安な事について時間を掛けてお話を聴き、関係作りが出来るようにしている。また記録として相談内容記録票に残し情報の共有が出来るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に話をよく聞き、他のサービスで対応可能であれば、他のサービスについての情報を提供している	事前に話をよく聞き、他のサービスで対応可能であれば、他のサービスについての情報を提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の生活歴・既往歴を把握し人柄・性格等を受け入れ入居者に合った介護が提供できるように考え行動をしている。またユニット内での役割が持てるよう意向の確認を行い調理・家事等への参加を促している。	入居者の生活歴・既往歴を把握し人柄・性格等を受け入れ入居者に合った介護が提供できるように考え行動をしている。またユニット内での役割が持てるよう意向の確認を行い調理・家事等への参加を促している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム ラシーク桂台**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等の際に声掛け等、ユニット内に行きやすい雰囲気作りを行いユニットで過ごされる時にも職員からの声掛けを行い本人の様子を見ながら今と昔の状況を踏まえて生活を支えていく関係作りを行っている	面会時等の際に声掛け等、ユニット内に行きやすい雰囲気作りを行いユニットで過ごされる時にも職員からの声掛けを行い本人の様子を見ながら今と昔の状況を踏まえて生活を支えていく関係作りを行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方や家族が気軽に来る事が出来やすい雰囲気作りを行っている。近隣のお店に買い物に行く等、外出する機会を作り近所の人や血縁者に会う事が出来る環境を作っている	馴染みの方や家族が気軽に来る事が出来やすい雰囲気作りを行っている。近隣のお店に買い物に行く等、外出する機会を作り近所の人や血縁者に会う事が出来る環境を作っている	生まれ育った場所に行き、自分の生家を発見して感激した利用者もいた。以前からの趣味のフラワーアレンジメント、将棋、また入居前の場所への散歩同行の様子等を、写真で廊下に掲示している。良い思い出と共に生活歴を大切に、馴染みの支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	声掛けを多く行い話題の提供や関わりが持てるように支援している。また居室で過ごされている入居者の方にも声を掛け孤立しないよう関わり意向確認をしながらリビングへの離床を促している	声掛けを多く行い話題の提供や関わりが持てるように支援している。また居室で過ごされている入居者の方にも声を掛け孤立しないよう関わり意向確認をしながらリビングへの離床を促している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況、必要に応じて柔軟に相談等の対応をしている	状況、必要に応じて柔軟に相談等の対応をしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時に状況等を把握し本人に対しての意向確認を行っている。また入居後についても会話の中でニーズを把握し対応が出来る部分については柔軟に対応を行っている。意向確認が困難な場合には日頃の状況等に応じてケア会議等でニーズの検討と家族へも本人の今までの生活背景から考えられる意向を確認し対応の実施を行っている	アセスメント時に状況等を把握し本人に対しての意向確認を行っている。また入居後についても会話の中でニーズを把握し対応が出来る部分については柔軟に対応を行っている。意向確認が困難な場合には日頃の状況等に応じてケア会議等でニーズの検討と家族へも本人の今までの生活背景から考えられる意向を確認し対応の実施を行っている	入居時に、本人と共に家族との関わりを多く持ち、生活歴や病歴等の情報収集から、その人の思いを見出している。入居後は気づきシートや状況表、屋礼等で情報共有し、モニタリングやカンファレンス等で思いや意向の再確認を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時に本人に答えられる範囲内でこれまでの生活状況を聴き把握に努めている。また家族にもこれまでの暮らし等について伺いなるべく正確な生活状況の把握に努めている	アセスメント時に本人に答えられる範囲内でこれまでの生活状況を聴き把握に努めている。また家族にもこれまでの暮らし等について伺いなるべく正確な生活状況の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別毎に担当者を決め項目に沿った評価を月に1回行っている。またケア会議時に全入居者の生活状況についての検討を行い、情報と対応の共有が出来るようにしている	個別毎に担当者を決め項目に沿った評価を月に1回行っている。またケア会議時に全入居者の生活状況についての検討を行い、情報と対応の共有が出来るようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別毎に担当者を決め項目に沿った評価とプランへの反映が出来るようケア会議での検討、計画作成担当者のアセスメント・モニタリング、本人からの要望、面会時の家族からの要望等を踏まえプランに反映できるように仕組み作りをしている	個別毎に担当者を決め項目に沿った評価とプランへの反映が出来るようケア会議での検討、計画作成担当者のアセスメント・モニタリング、本人からの要望、面会時の家族からの要望等を踏まえプランに反映できるように仕組み作りをしている	入居時の面接情報をもとに暫定プランを作成し、1~2か月後の状況変化に応じて、プラン継続か変更かのモニタリングを行う。利用者それぞれに担当職員があり、随時利用者の変化は状況表により確認、共有ができ、敏速な対応が可能となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の中から状況を把握している、また気づきシートを活用しケア会議で対応について検討し改善提案等に繋げている。また計画の見直し等にも活かしている	日々の記録の中から状況を把握している、また気づきシートを活用しケア会議で対応について検討し改善提案等に繋げている。また計画の見直し等にも活かしている		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム ラシーク桂台**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者のニーズについて、検討を行い対応可能な事柄については早期に対応している。入居者にとっての満足に繋がる対応に配慮している	入居者のニーズについて、検討を行い対応可能な事柄については早期に対応している。入居者にとっての満足に繋がる対応に配慮している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中で活かせるものについては積極的に活用しホームでの暮らしを受け入れその人らしく日々を過ごせるようにしている(ドライブ、買い物の付き添い等)	地域の中で活かせるものについては積極的に活用しホームでの暮らしを受け入れその人らしく日々を過ごせるようにしている(ドライブ、買い物の付き添い等)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を密に行えるよう状況の変化が有った際には速やかに相談し受診、指示を頂き身体的な負担の悪化に繋がらない対応に配慮している。受診後の状況により、紹介状により地域の総合病院への受診に繋げている	かかりつけ医との連携を密に行えるよう状況の変化が有った際には速やかに相談し受診、指示を頂き身体的な負担の悪化に繋がらない対応に配慮している。受診後の状況により、紹介状により地域の総合病院への受診に繋げている	主治医は、本人、家族の希望で選択している。現入居者の7割が往診医(契約医)となっている。受診に付いては、職員が付き添い、体調の情報提供を行っている。往診医と訪問看護師の訪問診療が月1回ある。訪問歯科は週1回あり、口腔ケアが実践されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療に入っている診療所の看護師と密に入居者の状況についての相談を行い状況に応じて早期に受診や指示がもらえるように対応を行っている	訪問診療に入っている診療所の看護師と密に入居者の状況についての相談を行い状況に応じて早期に受診や指示がもらえるように対応を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供を行い、入院中は定期的に面会に行き入院後の状況把握が出来るように対応している。また病院内の連携室担当とも連携し状況の把握が出来るようにしている	入院時には情報提供を行い、入院中は定期的に面会に行き入院後の状況把握が出来るように対応している。また病院内の連携室担当とも連携し状況の把握が出来るようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、その時その場所において変化が見られるものであり、家族間においても考え方が異なるので、本人・家族の意向を尊重しGHとして可能な範囲での対応が出来るように配慮し対応している。(平成26年11月～12月に掛け看取りケアを実施)	終末期のあり方については、その時その場所において変化が見られるものであり、家族間においても考え方が異なるので、本人・家族の意向を尊重しGHとして可能な範囲での対応が出来るように配慮し対応している。(平成26年11月～12月に掛け看取りケアを実施)	重度化や終末期は状態変化の都度、主治医の所見や家族の意向、思いを確認しその状態に則した対応を行っている。希望があれば、往診医との連携を図りながら、事業所での看取りも可能である。その際には家族の泊り、及び付き添いも可能であり、利用者最後の時間を共に過ごせる様支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修の救命講習に参加している	外部研修の救命講習に参加している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回避難訓練を行い避難についての手順確認を行っている。また飲料水・お米等の備蓄を行っている。地域との協力体制については運営推進会議でも話し合いをしておりお互いに協力しあえる関係作りを深めている	月に1回避難訓練を行い避難についての手順確認を行っている。また飲料水・お米等の備蓄を行っている。地域との協力体制については運営推進会議でも話し合いをしておりお互いに協力しあえる関係作りを深めている	火災を想定した、一連消化の流れの訓練を毎月行なっている。1階入居者は前庭に、2階入居者は、2階テラスに避難し、まずは安全を確保している。夜間の避難訓練に於いては、連絡網でのシミュレーションから、その手順の確認が行われている。	昼間は明るく職員も多いが、夜間は利用者もそれぞれの居室で就寝状態であり、職員二人では、避難誘導も大変と思われる。今後の避難訓練時に、消防署の指導を受ける機会を設けることと、夜間を想定した訓練の検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に行っているケア会議等に対応について検討を行いプライバシーの尊重や対応について振り返り、検討を行っている。また内部研修の中でも「接遇」についての研修を実施している	定期的に行っているケア会議等に対応について検討を行いプライバシーの尊重や対応について振り返り、検討を行っている。また内部研修の中でも「接遇」についての研修を実施している	研修の一環として、個人情報保護や接遇研修がある。「もし、自分がその立場であればどうだろうー相手の立場に立って考える」等々を学習し、利用者支援の基本としている。また、自宅での生活に近い環境を心掛けて、居室入り口や食卓テーブルに利用者の名札はしない。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム ラシーク桂台

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛け・日常会話の中で意思決定や伝達が出来やすい雰囲気・言葉掛けに配慮している。入居者の方の意思の尊重が出来るよう関わり方の工夫も行っている(選択式の声掛け等)	声掛け・日常会話の中で意思決定や伝達が出来やすい雰囲気・言葉掛けに配慮している。入居者の方の意思の尊重が出来るよう関わり方の工夫も行っている(選択式の声掛け等)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声掛け・日常会話の中で意向や想いを把握し入居者の意向に沿った対応に配慮しているが、強すぎるディマンドについては状況を説明しながら受け入れやすい雰囲気作りを行いながらの支援に配慮している	声掛け・日常会話の中で意向や想いを把握し入居者の意向に沿った対応に配慮しているが、強すぎるディマンドについては状況を説明しながら受け入れやすい雰囲気作りを行いながらの支援に配慮している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣服、オシャレをする事に対しての意識が持てるよう、身だしなみについての声掛けを行っている。また好みの服が着られるよう定期的に衣服を買いに行く機会を作っている。ケア会議内、申し送り等で衣服の状況(足りない物等)についての情報共有を行っている。また家族に対しても相談を行い好みの洋服を持ってきてもらったりしている	季節に合った衣服、オシャレをする事に対しての意識が持てるよう、身だしなみについての声掛けを行っている。また好みの服が着られるよう定期的に衣服を買いに行く機会を作っている。ケア会議内、申し送り等で衣服の状況(足りない物等)についての情報共有を行っている。また家族に対しても相談を行い好みの洋服を持ってきてもらったりしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い出し・調理・盛り付け・食器洗浄等、に対して意向確認を行いながら参加を促し役割を持ってたり食事に対しての意欲が持てるように支援している。預り金にて嗜好に合った物を個人買いで提供を行っている	買い出し・調理・盛り付け・食器洗浄等、に対して意向確認を行いながら参加を促し役割を持ってたり食事に対しての意欲が持てるように支援している。預り金にて嗜好に合った物を個人買いで提供を行っている	朝夕は、食材サービスを利用している。昼食は職員と一緒に作り、後片付けやテーブル拭き等の役割もある。献立は希望を聞いたり、残りの食材で工夫している。また、1階ウッドデッキや2階テラスでお茶を飲んだり、時には、ラーメン屋、寿司屋等への外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量をチェック表に記入し安定した摂取量が摂れているか情報共有が出来るようにしている。また食材業者からも食材を入れている為、必要栄養量に沿った献立により偏った栄養量にならないように配慮している	食事・水分摂取量をチェック表に記入し安定した摂取量が摂れているか情報共有が出来るようにしている。また食材業者からも食材を入れている為、必要栄養量に沿った献立により偏った栄養量にならないように配慮している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に口腔ケアを行っている。また歯科衛生士による対応・指導もある為、状況について相談し、状態に合った対応が出来るようにしている	定期的に口腔ケアを行っている。また歯科衛生士による対応・指導もある為、状況について相談し、状態に合った対応が出来るようにしている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄リズムを把握しながら適時にトイレ誘導、介助が出来るようにしている。また排泄状況によりオムツ・パッド・紙パンツの変更、トイレ・PTイレでの対応等を検討しなるべくトイレでの排泄が出来るように支援している	排泄チェック表を活用し排泄リズムを把握しながら適時にトイレ誘導、介助が出来るようにしている。また排泄状況によりオムツ・パッド・紙パンツの変更、トイレ・PTイレでの対応等を検討しなるべくトイレでの排泄が出来るように支援している	立位・座位保持者は、積極的にトイレ排泄を促す。半数以上が自立排泄が可能となっている。また、トイレパー(トイレ全面開閉式手摺)が設置され、転倒予防と安心感、トイレ排泄への意欲向上と共に腹圧が掛り易く、排尿がしやすい工夫がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄リズムを把握し水分摂取の促しや腸の運動を高める為にも活動が必要な事を声掛けし促している。また状況(便が硬い等)に応じては往診・受診時に主治医に相談し緩下剤等の内服処方・調整を行ってもらい円滑な排便に繋がれるようにしている	排泄リズムを把握し水分摂取の促しや腸の運動を高める為にも活動が必要な事を声掛けし促している。また状況(便が硬い等)に応じては往診・受診時に主治医に相談し緩下剤等の内服処方・調整を行ってもらい円滑な排便に繋がれるようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	身体状況や本人の意向を踏まえて入浴日をずらす等の対応を行っている。時間帯の自由度についてはシフトの中で勤務者が多い時に夜間浴を促してみたり、足浴の実施をしたりしている	身体状況や本人の意向を踏まえて入浴日をずらす等の対応を行っている。時間帯の自由度についてはシフトの中で勤務者が多い時に夜間浴を促してみたり、足浴の実施をしたりしている	希望があれば、夜間入浴が利用でき、在宅での生活習慣が保たれている。また、足浴も用意されてその効果から不穏が減少した例もある。脱衣室には、ヒートショック予防の観点から、ヒーターが用意され、立位、座位が困難な利用者には浴室リフトが準備されている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム ラシーク桂台**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状況に応じて日中についてもベッドで休む時間を作っている。昼夜逆転等が見られ夜間不眠状態の入居者の方については日中の関わりを増やし夜間安眠が出来るよう活動を促している	身体状況に応じて日中についてもベッドで休む時間を作っている。昼夜逆転等が見られ夜間不眠状態の入居者の方については日中の関わりを増やし夜間安眠が出来るよう活動を促している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服が処方された際には、受診の状況・お薬説明書とその都度差し替え内服についての理解が出来るようにしている。	内服が処方された際には、受診の状況・お薬説明書とその都度差し替え内服についての理解が出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者・家族のニーズに応じた支援、または日頃の状況、残存機能の状態を見ながら趣味活動が出来る機会を作っている。またボランティアの方による手芸・歌の機会なども作っている。また外出・外食の機会を作り気分転換が出来るように対応している。	入居者・家族のニーズに応じた支援、または日頃の状況、残存機能の状態を見ながら趣味活動が出来る機会を作っている。またボランティアの方による手芸・歌の機会なども作っている。また外出の機会を作り気分転換が出来るように対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的にドライブ・外出に行く機会を作っている。以前住んでいた場所や馴染みの場所、行った事がない場所等に行き気分転換が出来るように支援している。また希望がある物の買い物・買い出しに行く機会も作っている	定期的にドライブ・外出に行く機会を作っている。以前住んでいた場所や馴染みの場所、行った事がない場所等に行き気分転換が出来るように支援している。また希望がある物の買い物・買い出しに行く機会も作っている	疲れない範囲で市内のドライブが1時間程度、毎日行われ楽しみとなっている。その途中、買い物をする利用者もいる。また、車窓からの市内の様子を見て、昔の様子等が話題となることもある。主治医の意見や体調を見ながら、富士山5合目や善光寺御開帳、ウエルネスパークへのドライブ兼散歩や、四季折々の花見等も行なっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	定期的に買い物の機会を作り支払いが出来る入居者については支払いをしてもらったりお金に対しての意識が持てるように支援している	定期的に買い物の機会を作り支払いが出来る入居者については支払いをしてもらったりお金に対しての意識が持てるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については希望が有った際に利用が出来るように対応を行っている(事務所等)	電話については希望が有った際に利用が出来るように対応を行っている(事務所等)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホームらしき日常生活の場として安心して寛げる環境・雰囲気作りを行っている	グループホームらしき日常生活の場として安心して寛げる環境・雰囲気作りを行っている	高台という立地条件から、日当たりと共に見晴らしも良い。食堂から続いているウッドデッキからは、岩殿山全景と市内が見渡せ開放感が味わえる。また、廊下には、催し時の写真が掲示され思い出作りとなっている。ユニット所々には季節感が味わえるように、四季折々の草花を飾る等の工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーの活用(1~2人掛け・複数人掛け)を行い思い思いに過ごせる環境作りに着目し配置等の工夫・検討を行っている	ソファーの活用(1~3人掛け・複数人掛け)を行い思い思いに過ごせる環境作りに着目し配置等の工夫・検討を行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みの使用の制限をしていない為、家族・本人の意向に沿った物を持ち込めるように対応を行っている(仏壇・こたつ等)	持ち込みの使用の制限をしていない為、家族・本人の意向に沿った物を持ち込めるように対応を行っている(仏壇・こたつ等)	各居室には、クローゼット、チェスト、洗面台、エアコン、ベッドの用意があり、ベットは3モーターベットになっている。居室は仏壇、テーブル、家族の写真等馴染みの物を自由に持ち込み、その人らしい居室づくりが出来ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能の活用、身体状況の変化に合った物品の導入等を検討している。またケア会議等で対応についての検討・情報共有を行い生活行為の維持・拡大が出来るようにしている	残存機能の活用、身体状況の変化に合った物品の導入等を検討している。またケア会議等で対応についての検討・情報共有を行い生活行為の維持・拡大が出来るようにしている		